

Human ヒューマン

2014.12 Vol.04

CONTENTS

02 特集 4年生に聞く就活体験談

04 OB インタビュー 北洋銀行 清水健太さん

05 大学院 info

05 大学院生だより 修士課程1年 大木七帆さん

06 ゼミ紹介 日本文化学科 田中 綾 3年ゼミ(1部) 英米文化学科 大森一輝 3年ゼミ(1部)

07 人文学会レポート

裏表紙 人文学部 TOPICS

文化を学ぶ
世界と繋がる

OBインタビュー

O B | i n t e r v i e w

勉強、部活、アルバイトと、バランスのとれた学生生活を送り、英語を武器にして就活も乗り切った。そしていま、持ち前の英語力を発揮して、希望する仕事に就き、やりがいを感じる毎日につなげたパワーの秘訣に迫る。

北洋銀行 倶知安支店
営業課

清水 健太さん

2014年3月 人文学部英米文化学科卒業



目的意識を持ち、自分のやりたいこと、好きなことに思いきりチャレンジ！

TOEIC 910点、英語を武器にし、就活に活かす。

——北海学園大学の英米文化学科に進んだのは？

小学2年生から野球でピッチャー一筋。札幌拓北高校（統合で現在は札幌英藍高校）では硬式野球に打ち込み、大学進学は考えていなかったのですが、英語で赤点を取って、監督から試合に出さないぞと怒られ、一生懸命勉強したことで成績も上がってきたんです。それで、先生から推薦で北海学園大学への進学を勧められ、せっかく成績が上がってきた英語をもう少しがんばってみようと、学園大へ進むことを決めました。

大学で入った準硬式野球部は、1部リーグで常に北海道大学と優勝を争うチームでしたが、上位2チームが進む全国大会ではほぼ1回戦負けでした。甲子園に行った人や全道クラスの人もいて、ピッチャーとしては3番手くらい。本番に弱いタイプでしたが（笑）、のびのび野球で楽しくプレーできました。2年のときは野球づけの毎日で単位取得が危なくなり、3年では練習参加を控え、勉強に専念して盛り返しました（笑）。

英語は、4年間、頑張りましたね。TOEICに向けた実践的な授業もあって、TOEICは1年生のときに710点、2年では840点、3年で910点を取って、やったぞって（笑）。英検も準1級を取って、それで英語を武器にして、就活に活かしたいと思うようになりました。

また、言語学やメディア論にも興味が出てきて、柴田崇先生のゼミでは数多くの本を読んで、科学技術や医療技術の進歩などについて議論をし、見識を深めました。卒論は『高校野球とストレス』について取り上げ、最大のストレスである体罰についても考察しました。

学生時代は、北海道新聞社での編集補助を中心に、いろいろなアルバイトもしました。社会人としての接し方やマナーを学ぶことができ、責任ある仕事にやりがいを感じることでできて、とてもよい経験でした。

——学園大はどんな大学でしたか？

人文学部は勉強する環境がしっかり整っていて、自由に自分の学びたいことを選択でき、自分の興味のままに深い知識を身につけることができます。目的意識を持って勉強をがんばろうという人が多く、英米文化では外国人講師もいらっちゃって、意欲ある人には親身になって教えてくれます。本当に、自分のやりたいこと、好きなことに思いきりチャレ

ンジできる大学だと思います。僕は、勉強、部活、バイトなどを通じて、人とかかわり方を学び、自分というものを持つことの大事さを実感できて、バランスのとれた大学生活を送れたのではないかなと思います。

外国為替の仕事は達成感、充実感にあふれている。

——どんな仕事をされているのですか？

銀行の仕事は幅広いので、自分の得意分野である英語を軸にしていろいろな仕事ができたらと思い、エントリーシートにも外国為替の仕事をしてみたいと書きました。倶知安支店は、オーストラリアをはじめとして外国人がものすごく多い町なので、英語ができるということで配属になったのかなと思っています。入行して最初の半年間は、預金後方ということで、通帳の繰り越しとか定期預金の解約、小切手や手形などの仕事をしていたのですが、分からないことだらけでひたすら勉強の日々でした。

この10月からは、希望していた外国為替の担当になりました。外国為替業務には、仕向（海外送金）と被仕向（海外送金の受け取り）があり、被仕向を主に扱っています。外国の銀行から倶知安支店に口座をお持ちのお客様に送金されてくるときに、FAXを受けて送金先のお客様に電話をし、お受け取りになる理由をお尋ねして、確認の上伝票を起こして実際に入金するという業務です。お受け取り理由の確認は、外為法に基づいてマネーロンダリング対策などとして行われるものです。外国人のお客様の店舗での接客も行いますが、外国為替の仕事は最初から最後まで自分一人の力で、そして自分の英語力を駆使して完結させる仕事なので、達成感ややりがいを感じています。銀行の草野球チームでも、いちばん若手のエースとして（笑）、今季のチーム新人王をいただくなど、公私にわたって充実した毎日を、とても楽しく送っています。

——仕事での夢や希望はありますか？

これからはアジアの時代。北海道の魅力をアジアに伝え、北海道のビジネスとアジアのビジネスをつなげるような仕事をしてみたい、という夢は持っています。そのためには、融資とか銀行の基本的な仕事をしっかり覚え、それにプラスして英語を駆使して、国際部だとか、海外に羽ばたいていけたらと思っています。

文学研究科は、日本文化専攻修士課程が設置された 1999 年 4 月に発足し、2001 年に日本文化専攻博士（後期）課程、2003 年に英米文化専攻修士課程、2005 年に英米文化専攻博士（後期）課程が増設されて、今日に至っています。

「北緯 40 度圏という北の大地から『新しい人文学』を創成する」—これが、開設以来の文学研究科の理念・目的です。「新しい人文学」あるいは「新人文主義」とは、伝統的な「人文主義」が、人間解放の名の下に自然を征服し、人間至上が「近代」の価値であるとして世界を支配することに道を開いた隘路を凝視

し、人間が人間であるとは何かを問い質そうとするものです。日本文化専攻は「日本文学」と「歴史・文化」の 2 分野を柱とし、北海道という地域的特性を生かしながら日本文化の遺産を自分自身の目でみつめ問い質す営みをとおして、その創造的発展を目指しています。英米文化専攻は「社会文化」と「思想文化」の 2 分野を柱とし、文学や語学だけでなく歴史・社会・思想・宗教など多角的な視野で英米を初めとする世界の文化を研究することを目指しています。

■ 2015（平成 27）年度 入学試験

		出願期間	試験日
文学研究科 ● 日本文化専攻 ● 英米文化専攻	修士課程	第Ⅰ期 2014 年 9 月 5 日（金）～ 16 日（火） 第Ⅱ期 2015 年 1 月 8 日（木）～ 19 日（月）	第Ⅰ期 2014 年 10 月 18 日（土） 第Ⅱ期 2015 年 2 月 20 日（金）・21 日（土）
	博士（後期）課程	2015 年 1 月 8 日（木）～ 19 日（月）	2015 年 2 月 20 日（金）・21 日（土）

※詳しい情報はホームページや大学院要覧をご覧ください。



大木 七帆

大学院文学研究科英米文化専攻
修士課程 1 年

本文学研究科は、自分自身の研究テーマとじっくり向き合うことのできるような環境が整っています。学生の研究テーマは様々で、私は英米文化専攻で「日本人英語学習者の語用論的気付き」を研究テーマとしています。「誰に何をいつどのように伝える」かを判断するための語用論的気付きは外国語学習者にとって大きな課題と言えます。私は学部生時代の交換留学先のカナダで英語学習者として様々な課題に直面し、自分のような学習者の役に立てるようになりたいと強く思うようになり、そのことが大学院進学、研究活動へのモチベーションとなりました。現在は、第二言語習得にかかわる理論、論文の文献調査、自分自身の修士論文の執筆に向けた調査や今後の調査計画に取り組んでいます。研究の活動自体は根気のいる作業が多

大学院生だより



いです。しかし、実際に調査したことを学会で発表し、色々な先生方とお話しさせていただく機会を得ることができ、新しい刺激を毎日たくさん受けています。今後は修士論文に向けて更に頑張りたいと思います。興味のある方はどうぞ文学研究科へ！

日本文化学科

田中 綾
3年ゼミ
(1部)



ゼミの主な活動は、次の2点です。①は、芥川龍之介、梶井基次郎ら、近代の短編小説を丁寧に分析すること。②は、①での分析結果を参考に、1,000字程度の小説を創作し、ゼミ生同士で合評すること。①②の成果として、3年生後期にゼミ文芸誌「A207」(2部は「道懐」)を刊行します。

今年度は「異界」をテーマとした小説を構造分析しましたが、ゲームのRPGに親しんでいる学生だけに、「作中主体(主人公)の異界侵入→妨害や抵抗→ある機会に

現実へ帰還→成長」の流れを綿密に分析できていました。

現在(10月)は、ゼミ誌作品の校正の真っ最中。ゼミ長と編集長を中心に、デザイン、印刷所との交渉、補助金申請と会計、広報や郵送など、全員が何らかの役割を担います。ゼミ誌は、公共図書館や北海道立文学館などで公開されており、昨年度の優秀作は『北海道同人雑誌作品選集第5集』(中西出版、本体1,500円)に収められ、全国書店で発売中。感想、ぜひお寄せ下さい。

ゼミ紹介

英米文化学科

大森 一輝
3年ゼミ
(1部)



アメリカ史／アメリカ研究のゼミです。前期は標準的なアメリカ史の教科書を全員で読んで、基礎知識を固めました。後期は、各人が興味のある本を取り上げ、その内容を紹介、質疑応答を通して知識の幅を広げながら、それぞれのテーマについて研究を発展させる可能性を議論します。内容は、アメリカ国民の形成、初期アメリカ生活史、ユートピ

ア小説、ギャング譚、人種意識、黒人史、黒人指導者、禁酒法、映画、現代都市空間、「アメリカ」とは何か、アメリカ帝国論、史料論など(担当教員がアフリカ系アメリカ人史を専門としているため、多少の偏りはありますが)多様です。アメリカの経験を素材に、近代社会を見直す、さらに現代日本を問い直すことを目指しています。

「人文学の新しい可能性」②

—安酸敏眞『人文学概論』を読む—



主催：北海学園大学人文学会

共催：北海学園大学人文学部・北海学園大学大学院文学研究科

パネリスト(発表順)

大谷通順 (日本文学学科教授)

柴田 崇 (英米文化学科教授)

仲松優子 (英米文化学科准教授)

手塚 薫 (日本文学学科教授)

司会 本城誠二
(英米文化学科教授)

11月22日(土)、豊平校舎 AV4 教室にて、人文学会総会に引き続き、「人文学の新しい可能性」と題するシンポジウムを開催しました。

人文学会とは、本学部教員を主要な構成メンバーにした学術交流の場です。昨年来、本学部の理念である「新人文科学」について議論し、理解を深めてきました。今年度は、今年8月に公刊された安酸敏眞先生の『人文学概論—新しい人文学の地平を求めて』(知泉書館)の問題提起を受け、各専門分野の4人のパネリストが人文学の課題と展望を語りました。

中国文学が専門の大谷先生からは、漢語における「人文学」に対応する語の紹介と意味の変遷の紹介を通じて、古代漢語の「文学」が、孔門の四科「德行・言語・政事・文学」の一つに数えられる士大夫の素養であったとの指摘がありました。

メディア論と生態心理学が専門の柴田先生からは、『人文学概論』におけるE・サイードへの言及を受け、「良き文献学」と「悪しき文献学」の対照、及びテキスト概念の転回から、サイードが提唱した「文献学」の可能性についてアイデアが出ました。

フランス近世・近代史を専門とする仲松先生は、L・フォン・ランケの実証主義歴史学をめぐる論争を起点に、フランス史における近年の議論を丹念に追う作業を通じて、人文学の大きな柱の一つである歴史学の現在と展望について提言されました。

人類学の手塚先生は、やはりE・サイードへの言及を受け、オリエントが表象されることに潜む権力関係への注目を評価しつつ、ヨーロッパの形成に多大な貢献をしたイスラム文明へ

の記述が『人文学概論』に僅少である点を指摘され、人文学の閉塞状況を打開するアイデアが、イスラム文明を含む異文化へのまなざしから得られるとの展望を示されました。

広大な「人文学」を概説する「人文学概論」は、現在、『人文学概論』以外に存在しません。専門が分化し、各分野における学問的成熟がすすんだ今日、一冊の本で人文学を総覧することは原理的に不可能と言ってもよいでしょう。にもかかわらず、人文学部に所属し、人文学の一翼を担う以上、われわれ教員は、同書にあるように、自らの専門の殻を打破し、各専門の基礎となる一般的な知への志向性を失ってはなりません。今回のシンポジウムにおける各専門からの提言や批判は、いずれも「人文学」への志向性を保持していた点で極めて建設的であり、その意味で、『人文学概論』の補遺になったものと思われます。

本城先生の手際よい進行に会場からの核心を突く質問も加わり、今回のシンポジウムは、単なる合評会の水準を超えた、実り多い議論の場になりました。



人文学の挑戦

人文学部は、「人文学の挑戦」と題するイベントを始めました。開催場所を学外に求め、本学部教員の研究成果を広く社会に還元し、地域社会との連携を図る企画です。

社会にとって大学は、開かれているようで閉じた機関です。生涯教育が提唱されて久しいにもかかわらず、大学は未だ万人の

学びの場になっていません。さらに、「実学志向」が強い風潮にあつて、文系学部のなかでもとりわけ人文学は、社会との接点が乏しい分野と見做されています。「人文学の挑戦」は、こうしたイメージを修正し、人文学における「知」の広さと深さを紹介しながら、問題を根本的に考えるための手がかりを提示します。

2014 年度は、記念すべきシリーズ第 1 回目の講演を皮切りに、計 4 回のイベントを企画、実施しました。



第 1 回 7 月 27 日 (日)

『アフリカ系アメリカ人という困難』をめぐって

講師 大森一輝 人文学部教授

聞き手 木下なつき

北海道武蔵女子短期大学講師



第 2 回 11 月 8 日 (土)

新しい人文学の地平を求めて

講師 安酸敏眞 人文学部教授

聞き手 田中綾 人文学部教授



第 3 回 12 月 7 日 (日)

道元の「思想」

講師 船岡誠 人文学部教授

聞き手 大石和久 人文学部教授

第 4 回 12 月 23 日 (火・祝)

文学と芸術から見たクリスマス

講師 佐藤貴史 人文学部准教授

講師 島田桂子 人文学部非常勤講師

地域社会の活性化のため、
今後も、人文学の「知」を背景にした
挑戦を続けて参ります。



— 大学 4 年間の集大成を発表しませんか —

人文学部では、学習支援の一環として、2013 年度から「卒業研究コンテスト」を実施しています。今年度は下記の要領で行います。大学 4 年間の集大成として、ふるって応募してください。

1 応募要領

- ・応募資格：人文学部 1 部・2 部生で所定の卒業研究を提出した者
- ・応募方法：自薦 応募用紙 (G-PLUS! 配信および人文学部事務室配布) に記入のうえ、卒業研究のコピーとともに人文学部事務室に提出
※発表要旨 (2,400 字程度、A4 判) も、同時に提出
- ・応募締切：2015 年 1 月 19 日 (月) 19:30
※日本文化学科 1 部は 2015 年 1 月 14 日 (水) 16:00

2 審査要領

- ・審査結果発表：1 月 30 日 (金) (人文学部掲示板・G-PLUS!)
- ・最優秀者 1 名 (賞状、賞金 2 万円)、優秀者 3 名 (賞状、賞金 5 千円)
他の応募者には敢闘賞 (賞状)

3 表彰式・発表会

- ・日 時：2 月 5 日 (木) 10:10 ~ 12:00
- ・発表者：最優秀賞受賞者、優秀賞受賞者 計 4 名

※詳細は、人文学部掲示板をご覧ください。

ヒューマン 2014.12 Vol.04

編集・発行：北海学園大学人文学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 <http://human.hgu.jp/> TEL.011-841-1161 (代表) FAX.011-824-7729

表紙キャッチコピー：

文化についての深い理解を涵養することが異文化社会に生きる人々と真のコミュニケーションを結ぶ力になる、という人文学教育の理念をあらわしたものです。

制作・印刷：(株)アイワード

PD：馬場康広 (株)アイワード 2000 年人文学部日本文学専攻卒